

(8) にがうり

病害虫	防除法	参考事項
うどんこ病	(薬剤防除) 農業登録情報	
	1 微生物殺菌剤	
	薬剤名	備考
	アグロケア水和剤	
	インプレッションクリア	
	クリーンカップ	銅剤との混合剤
	タフパール	
	ボトキラー水和剤	
	2 気門封鎖剤	
	薬剤名	
	アカリタッチ乳剤	
	エコピタ液剤	
	サフオイル乳剤	
	サンクリスタル乳剤	
	フーモン	
	ムシラップ	
	粘着くん液剤	
	3 発病を認めたら、下記薬剤のいずれかを7～10日おきに散布する。	
	薬剤名	
	アフエットフロアブル	
	アミスター20フロアブル	
	サンクリスタル乳剤	
	ダコニール1000	
	パレード20フロアブル	
	パンチョTF顆粒水和剤	
ベルコートフロアブル		

病害虫	防除法	参考事項
つる割病	(耕種的・物理的防除) 1 施設栽培では、かぼちゃ台木(新土佐1号など)に接ぎ木する。露地栽培ではとうがん台木を用いる。 2 発病株は早期に発見し、抜き取って処分する。 3 収穫後の茎葉を処分する。 4 石灰を施して土壌酸度を矯正する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 支柱及び床土を消毒する(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照)。 2 本ばは土壌くん蒸剤で土壌消毒する(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照)。 薬剤名 バスアミド微粒剤/ガスタード微粒剤 クロールピクリン ドジョウピクリン/クロピク80/ドロ クロール クロピクフロー クロールピクリン錠剤 ダブルストッパー	
斑点病	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 発病を認めたら、下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 スミブレンド水和剤 ダコニール1000 トップジンM水和剤	

病害虫	防除法	参考事項
アブラムシ類	(薬剤防除) 農業登録情報 1 生物農薬	○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項 1 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、 農業安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」 を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。 2 アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。
	薬剤名 (天敵名)	
	アフィパール (コレマンアブラバチ)	
	コレトップ (コレマンアブラバチ)	
	チャバラ (チャバラアブラコバチ)	
	テントップ (ナミテントウ)	
	カメノコS (ヒメカメノコテントウ)	
	ゴッツA (ペキロマイセス テヌイペス)	
	ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモソロセウス)	
	2 気門封鎖剤	
	薬剤名	
	エコピタ液剤	
	オレート液剤	
	サフオイル乳剤	
	サンクリスタル乳剤	
	粘着くん液剤	
	フーモン	
	ムシラップ	
	3 定植時に、下記薬剤のいずれかを処理する。	
	薬剤名	
	アドマイヤー1粒剤	
	ダントツ粒剤	
	4 発生初期に、下記薬剤のいずれかを散布する。	
	薬剤名	
	アクトラ顆粒水溶剤	
	アディオン乳剤	
	ウララDF	
	コルト顆粒水和剤	
	モスピラン顆粒水溶剤	
		○ アクトラはワタアブラムシでの登録である。

病害虫	防除法	参考事項
ウリノメイガ (ワタヘリク ロノメイガ)	(薬剤防除) 農業登録情報 1 BT 剤 薬剤名 ゼンターリ顆粒水和剤 チューンアップ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 2 発生初期に、下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 カスケード乳剤 トレボン乳剤	

病害虫	防除法	参考事項																
オオタバコガ	・ 共通防除の章のオオタバコガの防除の項を参照する。 (予防に関する措置) - ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 - 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。 - 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。 - 交信かく乱剤（下表）を活用した防除を行う。 - 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。 (判断、防除に関する措置) - 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。 - 寄生果を見つけ次第、除去する。 - 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。 - 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。 - BT 剤（下表）を活用した防除を行う。 - 作物残さを適切に処分する。 - 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたりほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。 (薬剤防除) 農薬登録情報 - 交信かく乱剤<table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>コナガコン</td></tr><tr><td>コナガコンープラス</td></tr><tr><td>コンフューザーV</td></tr></table> - BT 剤<table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>エスマルクDF</td></tr><tr><td>エコマスターBT</td></tr><tr><td>クオークフロアブル</td></tr><tr><td>サブリーナフロアブル</td></tr><tr><td>ジャックポット顆粒水和剤</td></tr><tr><td>チューンアップ顆粒水和剤</td></tr><tr><td>デルフィン顆粒水和剤</td></tr><tr><td>トアローフロアブルCT</td></tr><tr><td>フローバックDF</td></tr></table> - 発生初期に、下記薬剤を散布する。<table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>アフーム乳剤</td></tr></table>	薬剤名	コナガコン	コナガコンープラス	コンフューザーV	薬剤名	エスマルクDF	エコマスターBT	クオークフロアブル	サブリーナフロアブル	ジャックポット顆粒水和剤	チューンアップ顆粒水和剤	デルフィン顆粒水和剤	トアローフロアブルCT	フローバックDF	薬剤名	アフーム乳剤	
薬剤名																		
コナガコン																		
コナガコンープラス																		
コンフューザーV																		
薬剤名																		
エスマルクDF																		
エコマスターBT																		
クオークフロアブル																		
サブリーナフロアブル																		
ジャックポット顆粒水和剤																		
チューンアップ顆粒水和剤																		
デルフィン顆粒水和剤																		
トアローフロアブルCT																		
フローバックDF																		
薬剤名																		
アフーム乳剤																		

病害虫	防除法	参考事項																				
コナジラミ類	(予防に関する措置) 1 連作する場合には、作と作の間に施設内に植物が存在しない期間を設け、コナジラミ類がリレーされることを避ける。 2 育苗期の防除に努め、コナジラミ類が寄生していない苗を定植する。鉢物など、栽培に関係のない植物は、施設内に持ち込まない。 3 寄生範囲が広いため、ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 4 夏期には露地においても発生が多くなるため、秋期より栽培(定植)の始まる作型では、施設内への成虫の侵入防止対策を徹底する。0.4mm 目以下の防虫ネット、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ等を活用する。ただし、受粉を目的としてマルハナバチを利用する場合には、紫外線除去フィルムの使用がマルハナバチの活動に影響を与えることに留意する。 (判断、防除に関する措置) 1 特にタバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいので、予防策を基本とした総合防除を行う。 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。 3 成虫密度の低下のため、粘着シート等を設置する。施設で発生予察のために黄色粘着テープを使用する場合は、侵入防止を徹底したうえで、施設の出入口や側窓付近に張り、定期的に交換する。 4 生物農薬(下表)を活用した防除を行う。 5 本圃において化学的防除を行う際は、早期発見、早期防除に重点を置き、薬剤効果に差があるので種の区別を的確に行う。 6 薬剤散布を行うに当たっては、葉裏に寄生している幼虫、蛹にも必ず薬剤がかかるよう丁寧に十分な量を散布する。さらに、薬剤が株全体によく到達するよう下葉の処分を早期に行うなど工夫する。 7 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 生物農薬 <table><thead><tr><th>薬剤名 (天敵名)</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>エルカード (サバクツヤコバチ成虫)</td><td>施設のみの登録</td></tr><tr><td>エンストリップ (オンシツツヤコバチ)</td><td>施設のみの登録</td></tr><tr><td>サバクトップ (サバクツヤコバチ羽化成虫)</td><td>施設のみの登録</td></tr><tr><td>スワルスキー (スワルスキーカブリダニ)</td><td>施設のみの登録</td></tr><tr><td>スワルスキープラス (スワルスキーカブリダニ)</td><td>施設のみの登録</td></tr><tr><td>ツヤトップ (オンシツツヤコバチ)</td><td>施設のみの登録 オンシツコナジラミでの登録</td></tr><tr><td>ツヤトップ25 (オンシツツヤコバチ)</td><td>施設のみの登録 オンシツコナジラミでの登録</td></tr><tr><td>ツヤバラリ (オンシツツヤコバチ)</td><td>施設のみの登録</td></tr><tr><td>リモニカ (リモニカスカブリダニ)</td><td>施設のみの登録</td></tr></tbody></table>	薬剤名 (天敵名)	備考	エルカード (サバクツヤコバチ成虫)	施設のみの登録	エンストリップ (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録	サバクトップ (サバクツヤコバチ羽化成虫)	施設のみの登録	スワルスキー (スワルスキーカブリダニ)	施設のみの登録	スワルスキープラス (スワルスキーカブリダニ)	施設のみの登録	ツヤトップ (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録 オンシツコナジラミでの登録	ツヤトップ25 (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録 オンシツコナジラミでの登録	ツヤバラリ (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録	リモニカ (リモニカスカブリダニ)	施設のみの登録	○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項 1 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。 2 コナジラミ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
薬剤名 (天敵名)	備考																					
エルカード (サバクツヤコバチ成虫)	施設のみの登録																					
エンストリップ (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録																					
サバクトップ (サバクツヤコバチ羽化成虫)	施設のみの登録																					
スワルスキー (スワルスキーカブリダニ)	施設のみの登録																					
スワルスキープラス (スワルスキーカブリダニ)	施設のみの登録																					
ツヤトップ (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録 オンシツコナジラミでの登録																					
ツヤトップ25 (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録 オンシツコナジラミでの登録																					
ツヤバラリ (オンシツツヤコバチ)	施設のみの登録																					
リモニカ (リモニカスカブリダニ)	施設のみの登録																					

病害虫	防除法	参考事項
コナジラミ類	2 気門封鎖剤 薬剤名 エコピタ液剤 オレート液剤 サフオイル乳剤 サンクリスタル乳剤 粘着くん液剤 フーモン ムシラップ 3 定植時に、下記薬剤を処理する。 薬剤名 スタークル/アルバリン粒剤 4 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 サンマイトフロアブル	
アザミウマ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 生物農薬 薬剤名備考 スワルスキー スワルスキープラス ククメリス施設のみの登録 メリトップ施設のみの登録 リモニカ施設のみの登録 オリスターA施設のみの登録 トスパック施設のみの登録 リクトップ施設のみの登録 タイリク施設のみの登録 アリガタ施設のみの登録 ボタニガードE S ボタニガード水和剤施設のみの登録 2 発生初期に、下記薬剤のいずれかを散布する。 【アザミウマ類】 薬剤名 アドマイヤー顆粒水和剤 カスケード乳剤 ハチハチ乳剤 【ミナミキイロアザミウマ】 薬剤名 コテツフロアブル ダントツ水溶剤	○ コテツフロアブルは定植後に使用する。定植後も葉に灰褐色などの斑点の葉害を生じることがあるので注意する。 ○ アドマイヤー顆粒水和剤は、施設栽培での使用に限る。

病害虫	防除法	参考事項	
ネコブセンチュウ	・ 共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項 を参照する。	○ 生物農薬使用上の留意事項 1 パスツールリア ペネトランスがほ場に定着し、効果を発揮するまで、2～3年かかる。この間、D-D剤や粒剤を用い体系的な防除に努める。 2 くん蒸剤には、キルパー、テロン、D-D剤を使用できるが、クロルピクリンは土壌中のパスツールリア ペネトランスに影響を与えるため使用できない。 3 防除効果は、サツマイモネコブセンチュウに限定される。	
	(薬剤防除) 農薬登録情報		
	1 生物農薬		
	薬剤名		
	パストリア水和剤		
	2 下記薬剤を施用する。		
	薬剤名		備考
	DC油剤/D-D/テロン		
	パイデートL粒剤		○処理直後に作付けできる。 ○石灰などアルカリ性肥料の同時施用は避けること。 ○植物に吸収されて効果を現すので、土壌水分を高く保つ。 ○毒性が強いので、取り扱いに十分注意する。
	ネマキック粒剤		
	ネマトリンエース粒剤		は種前又は定植前に、ほ場全面に土壌混和する。
	ガードホープ液剤		生育期に土壌処理できる。根こぶが付いている根を回復させる効果はない。使用適期は被害の初期(一般的には定植2～3ヶ月後)である。
	石灰窒素50		石灰窒素資材
	石灰窒素55		石灰窒素資材
	粒状石灰窒素55		石灰窒素資材
	カルメート55		石灰窒素資材
	カルメート60		石灰窒素資材
粒状石灰窒素40	石灰窒素資材		
粒状石灰窒素	石灰窒素資材		
石灰窒素50防散	石灰窒素資材		